



「前向きに考え、いい先生に出会って、支えがあったということですが、最後は家族にも「うつった」ことを知っていただきました。いいことですね。」

**山田** 患者本人はもちろん頑張っているわけですが、主人を見ていて、本人以上に落ち込んだりしていることがよく分かりました。特に乳がんの場合、旦那さん同士が励まし合って、私の主人も元気になりました。そうか、家族も周りの人も落ち込んだりするのだ、これもまとめて応援して欲しいと思いました。

### がん患者や周りの人を 応援するスター混声合唱団

「スター混声合唱団」も始められました。

**山田** 芸能人にもがんの人はたくさんいますが、芸能界は古い考え方があって、病気を隠すのです。健康なイメージがなくなると役がつかない、仕事の話が来なくなるということ、

嫌がられた時期があつて、私ですら、うちの事務所は古いタイプですから「隠そう」と言われたのです。

私は、「そんな時代じゃない。悩んでいる人がいるのなら言っていくのが私の仕事ではないか」と、公表することに決めました。

そうすると、よくぞ言ってくれた、私もだ私もだと、芸能人が集まったわけです。「スター混声合唱団」をやるという事になって、とりあえず1回会ってやればいいと思いましたが、あつという間に患者の方々、ファンの方々がついて、「すごくよかった」「次はいつですか」「もう一度やってください」「来年は、再来年は」となっていたのです。

今は情報時代ですから、連絡が如何ようにも入ってきます。電話、メールで「ここでもやってください」「私たちはこういう会です」と全国から来るわけです。一つひとつお返事をして、全部にお会いしています。マネジメントは素人ですから、手探りでやっています。

「おそろくそれが一番着実で、確実に伝わるやり方かなと思います。」

**山田** 今のところスケジュールは真っ黒です。やり過ぎですけどね。東京・築地の国立がんセンターの中でもコンサートをやるという大変な事になりましたけれども。

スター混声合唱団は、歌唱力は二の次ですけど、笑顔と知名度が抜群



スター混声合唱団(厚生労働省で)

ですから、最初からマスコミの食いつきがよくて、新聞、雑誌、NHKのニュースでも流してくれました。団員もどんどん増えてきて、がんではない芸能人でも「マネージャーがそうだった」「親がそうだった」ということが入ってくさつて、今、68人というすごいことになってきています。

厚生労働省の会議室でもお歌いになりましたね。

**山田** あの時人数も少なかったですけど、音無美紀子さんと岩崎良美ちゃんも来てくれて、会議室ですからピアノもなく、アカペラで歌いました。

まあ、「合唱団」とはしていますが、アナウンサーの人も多いから朗読もし

ますし、女優がいますから寸劇のようなこともやりますし、パフォーマンスはいろいろです。歌わなくてもスター混声合唱団です。

イベントではウォークラリーもよくありますね。会にはスポーツ選手も入っていますので、小児がんの子どもたちが学校に行くことができないのならスポーツ選手を派遣することもできるという事で、病院や支援団体と話を進めています。

皆さん、本当にノリがよくて、電話一本で来られます。スケジュールがだめなときは「だめです」と言うのも早いですけど(笑)。「行きます」と言われると、本当に来るのかなと思いますが、ちゃんと来られます。志が高くてうれしいです。

「そついった方々に活動していただかないと、「がん」という言葉には前向きな気持ちで興味を持ってほしいですね。」

**山田** 変えたいですね、「がん」という病名も変えられないですかね。私は「キョン(笑)が一番好きなんです。」

漢字の「癌」も山盛りのぶつぷつでしよう? そこにやまいだれですから、あの字も上だけ花かんむりにするとか(笑)、下は☆印にしてしまおうとか、直してもらいたいですね。

「ごめありがとうございます。」